

では、**箴言 5 章**をお開き下さい。前置きでも述べました通り、ここからは『**性教育**』について、いろいろな具体的な細かいデータ等も交えながら皆さんにお伝えしていきたいと思えます。今から皆さんにお伝えすることは、大人として最低この程度の性的な知識はしっかり把握して、そしてそれを若い者たちに、特にご自身の子供や孫たちに伝えられるようになって頂きたい。細かいデータ等を憶える必要はありませんけれども、実態はある程度把握する必要があるかと思えます。つつい私たちは自分たちの子供時代のことを考えて、そして現代の子供にそれを当てはめようとしてしまうかもしれません。でも人間の本質は変わらないまでも、ただ私たちの子供時代とは全く違う現実もあるわけです。本来見なくてもいいものを子供たちは見てしまいます。本来聞かなくてもいいものを聴いてしまいます。本来触れなくてもいいものにも触れられてしまう。そういう情報が溢れて、洪水の如く彼らの思いも心も、また体も汚してしまうという恐ろしい現実があります。激しい誘惑があります。その辺の現実にも目をしっかりと向けて頂きたいので、細かいデータ、数字の話もしますし、実際にいろいろな社会問題についてもニュース等の記事も交えながらお伝えしていきたいと思えます。

まずはそのデータなんですけれども、これは東京都内の 3,000 人の高校 3 年生を対象とした調査で、その高校 3 年生の性交経験率というもの、セックスの経験率というものをまず皆さんに紹介しておきたいと思えます。古いデータから言いますと、1984 年男子高校 3 年生の場合は 22%、女子は 12.2%。これが 2002 年になりますと男子は 37%、女子は 45.6%です。そして、今度は 2008 年になりますと男子は 47.3%、女子は 46.5%に年々増加してきているわけです。そして現在は 2013 年で、今そのデータが私の手元にはありませんけれども多分 50%以上と言って良いと思えます。

今度は大学の話ですけれども、日本性教育協会の調査の結果ですと、大学生の男子は 63%がセックス経験者、女子の 62%がセックス経験者ということです。これは恐らくは大分控えめな数字だと思います。すべての子どもたちが、学生が正直に答えているとは限らないからであります。

そして、これは主に東京の子どもたち、学生たちの話をしたわけで、東京は都会だから、進んでいるからと皆さん思うかもしれません。2000 年の秋田県の性教育委員会の調査結果です。高校 3 年生男子 197 名、女子 246 名を対象とした結果。その性交経験率、セックス経験率は、男子ですと 47%、女子ですと 50%。これは東京よりも高い数字となっています。

もう一つは、2000 年の群馬県の思春期研究会の発表によると、やはり高校 3 年生約 6,000 人を対象とした調査結果ですと、男子は 46.1%、女子は 42.2%です。これも東京よりも高い数字となっています。

全国平均ですと 2005 年の全国高等学校 PTA 連合会の調査結果があります。約 1 万人の高校 3 年生を対象とした統計ですと、男子は 30%、女子は 39%。これが全国平均ですが、田舎に行くほどこの率が高まっているというのは皆さん驚きかもしれません。長野のデータは今私の手元にはありませんけれども、大体想像がつくと思えます。長野県は淫行条例が無い事でも知られています。日本で唯一淫行条例の無いところで子供とセックスをしても特別罰せられない。勿論いろいろ適用される条例はあるんですけれども、このことも考えさせられます。

中学生のデータもあるんですけれども、男女の中学生の性交経験率はおよそ 12%というのが最近出ています。これはどんどん低年齢化しているわけです。

そして最近もいろいろな性にまつわるショッキングな事件も皆さんよく聞いていると思えます。これはニュースになりますけれども 2005 年 5 月 20 日のニュースです。『**児童売春斡旋疑惑。51 歳元 UFJ 行員を逮捕**』という見出しで発表されました。警視庁の少年育成課は 20 日、小学生や中学生の少女に客を紹介して売春させていたとして、東京都目黒区のこの元 UFJ 銀行の蒲田ローンセンター所長代理の T 氏 51 歳を起訴したという事件がありました。調べによると T 被告は、同行行員だった(要するに銀行員だった)その時、渋谷のビル内で当時小学 6 年生だった

少女(12歳)を横浜市ของบริษัท員(29歳)に紹介して売春させ、6万5,000円を受け取ったという疑いです。また、その前には中学3年の少女(14歳)を埼玉県の川越市のやはり会社員36歳に紹介して、同様に6万円を受け取ったという疑いということです。このT被告は渋谷の繁華街で『フレッシュな女の子募集』というチラシを女子小中学生に配り、応募して来た少女にインターネットで集めた客を紹介して売春させたと言い、同課で余罪を追求しているというものです。これが2005年のニュースです。

そして2006年の7月18日のニュースです『**児童買春容疑で神戸大学生逮捕。小6女兒2人とホテルに**』という見出しで報じられました。小学6年生の女兒2人に淫らな行為をしたとして和歌山県警は18日神戸大法学部4年生の22歳の学生を、児童買春、児童ポルノ禁止違反容疑で逮捕した。この女兒らともやはりインターネット上の出会い系サイトで知り合ったということです。大学生が小学6年生の女兒といわゆる援助交際をしたということです。

そして2009年6月14日のニュースです『**中3男子、出会い系で13歳と16歳少女売春。お年玉使って**』という見出しがあります。中学3年生の男子生徒(14歳)が、サイトで知り合った13歳の少女を6万円で、16歳の少女を4万円で売春したと供述しています。やはりこれも出会い系サイトの援交掲示板に『**神奈川女子中学生募集**』という形で『かなり金があるから援交したい人来て。』というような書き込みをして相手を募集したということです。そして男子生徒はお年玉を使ってやったということです。もう呆気にとられるしかない、開いた口が塞がらないと思われかもしれませんが、これが現実であります。勿論もうこういってニュースは皆さん聞き慣れてしまって、耳慣れてしまって、今更特別驚かないと言う人もあるかもしれませんが、これが今の子どもたちの現実であります。

そしてそうした現実を踏まえて、このままでは子供たちはどうなってしまうのだろうか。この日本の社会はどうなってしまうのだろうか。もう希望も持てないように思うかもしれません。聖書に私たちの本来のあり方、性に関するガイドラインというものが、(もう数千年も前から書かれ、これは書き換えられることもなく、いつの時代にも通用し、いつの時代にも効果を示してきたというものが、)与えられておりますので、もう時代錯誤した昔話ではなくて、今の時代には通用しないようなオールドファッションではなくて、これは古今東西少なくとも今から3,000年前の言葉ですけれども、それは今でも通用する、どの文化にも、どの世代にも通用するものとして与えられていることは幸いであります。ですから今から皆さんと共にその真理の言葉を、**真の性教育**をここから学びとっていきたいと思います。

1節にまず目を留めて下さい。『**わが子よ。私の知恵に心を留め、私の英知に耳を傾けよ。**』語り手はソロモンであります。ソロモンが「わが子」と言っていますから、これは単数の「我が息子よ」というのが直訳です。これまでも見てきたようにソロモンの後継者はレハブアムという王様でした。特に彼に対して先ずは語りかけています。『**わが子よ。**』父親が息子にこれから性教育を施そうとしているわけです。性教育は母親のすることだと多くの日本人男性は思っているかもしれませんが。でも聖書においては、性教育は本来男がするものです、男性がするものです。律法を見て頂くと、娘のみこの操のみこの責任は父親にあるということが書いてあります。父親がしっかりと娘に性教育を施さないから、その結果娘が処女を失ったり、結婚前に肉体関係を持ってしまう。その全責任は父親に課せられるということが律法によって定められています。ですから息子に対しても同じでありまして、まずはお父さんがそこにいるならば(お父さんがいなければ母親がやる必要がありますけれども)性教育を施すのは父親の重要な役割であります。『**わが子よ。**』「我が息子よ」と、「我が娘よ」と。勿論女性の体の事は男性にはあまりよく分からないところもありますから、その辺はお母さんが勿論助け手として、サポーターとして与えられていますから、娘に対しては母親のやはり協力も必要だと思いますが、とりわけ息子に対してはしっかりと伝えていく必要があります。男から男へと。ソロモンは性教育を施すには値しない人物だったということも私たちはよく知っております。実は彼には1,000人の女がいるからであります。1,000人の女性と寝たわけです。でもそこから得たものがあつたわけです。**伝道者の書**にも「女が如何にも苦々しいということがよく分かった。」ということも彼は言っていますが、勿論それは女性蔑視の言葉ではありません。彼は沢山の女性と関係を持てば幸せになれると思っていたのです。世界中の絶世の美女を集めて、彼女たちと性的関係を結べば満たされると思っていたのです。でもその逆だった、本当に苦々しいと告白しているわけです。その経験

者が今語ろうとしているわけです。重みがあります。反面教師のようにも私たちは捉えることが出来ます。経験者がものを言う、というところです。よく皆さんに私がお伝えしているのは、「経験というのは最良の教師である。」と。経験から学ぶこと、それは必ず身に付くものです。ただし、その経験はあなた自身の経験である必要は全くないということも併せて覚えて欲しいと思います。自分で痛い思いをしなければ分からないのではなくて、他の人の痛い思いを通して私たちは学ぶことが出来るのです。ただで学べるのです。でも自分が痛い思いをして、ハードレッスンをして自分の経験から学ばなければいけないとするならば、そこには大きな代償も伴うということです。ソロモンと同じように苦々しい思いをしなければいけません。ソロモンと同じように家庭の崩壊を見なければいけないかもしれません。でもそんなことをあなたは経験する必要はないのです。既に沢山の失敗をして、苦い、痛い、そういう経験をした人たちから私たちは学ぶことが出来ます。ですから自分の経験ではとてもあなたはレッスン料を支払いきれないかもしれません。受講料は高過ぎるのです。でも人の経験なら受講料はただです、無料です。そのようにしてソロモンは自分の息子に正直に「私は過ちを犯してきた。ハードレッスンを学んできた。でも息子よ、あなたは私と同じような過ちを犯す必要は無い。あなたは私と同じようなハードレッスンを、高い受講料を払って学ぶ必要はないのだ。私の言葉にしっかりと耳を傾けるように。」と。よく私たちは勘違いをしてしまいます。「自分だって若い時は、はちゃめちゃだった。性的に乱れたことを平気でやっていた。だから自分の息子に、自分の娘に今更伝えることは出来ない。自分自身が失敗者だから、自分自身が弱かったから。」それを引け目に感じて、後ろめたさを感じて「とても自分のようなものは教える資格はない。」と思って躊躇してしまうものもあるかもしれません。でもソロモンを見て下さい。もう躊躇なんかしてられないという感じです。確かに彼自身はもう教える資格は無いような失敗者でありましたけれども、でも愛する息子の事を思えば黙ってはいられないわけです。「自分と同じ轍を踏んでもらいたくない。自分と同じような過ちを犯して欲しくない。」父親のプライド、恥も外聞もないわけです。「私は失敗者だ。でもあなたには失敗してもらいたくない。」「お父さんだって、お母さんだって若い頃はこうだったじゃないか。」と子供から指をさされるかもしれません。でも、それも甘んじて受けて下さい。その通りだと。「その通りだけれども、私と同じ道は進んでもらいたくない。過ちは繰り返してもらいたくない。あなたのことを愛しているから。今は、私は何が正しいのか分かっている。どうすべきなのか、分かっている。だから我が子よ、私の言うことを聞いて欲しい。」そのような熱意を私はここに感じます。是非皆さんも、自分の若い頃どうだったとか、過去の過ちがどうだったとか、そんなことは問題にしないで頂きたいと思います。そんな問題よりも子供たちが直面している問題の方が、子供たちのこれからの将来の方が遥かに大問題だということです。あなたが子供からどう思われようと、そんな事は問題にならないほどこれから子供たちが直面しようとしている事はもっと深刻な問題だということです。だから黙らないで下さい。しっかりと伝えて頂きたいと思います。

そして 2 節の方に『これは、分別を守り、あなたのくちびるが知識を保つためだ。』“分別”という言葉も1節に出てきた“英知”という言葉もやはり“知恵”という言葉の同義語であります。この“知恵”という言葉が箴言のキーワードとなって、テーマとなっているわけですが、その“知恵”を表すために様々な同義語も多用されています。これでもかというほどに2節の“知識”という言葉もやはり同義的に使われております。知恵は、英知、分別、知識。とにかくこれをしっかりと握り締めて離さないように。これが箴言を通じての一大テーマであります。

3 節のところに『他国の女のくちびるは蜂の巣の蜜をしたたらせ、その口は油よりもなめらかだ。』“他国の女”という言葉は「見知らぬ女」というふうにも訳せます。これは“外国の女”とも文字通り訳せますけれども、いわゆる“遊女”、“売春婦”というふうにも訳せます。昔は大抵の日本の企業は、慰安旅行と言えはもう買春ツアーです。温泉旅行と言えは、温泉地の歓楽街に男性社員は繰り出してストリップ劇場に行ったり、そういつたいかがわしい風俗店に入りするわけです。勿論彼らは妻子持ちです。でもそれが普通だったわけです。そして今も勿論これは続いております。東南アジアとかそういうところに会社の旅行に連れて行ってくれるんですけども、男性と女性は別行動になります。夜になったら男性たちは街に繰り出していくわけです。それがまかり通っているわけです。なのに子供たちには「ふしだらだ。そんな援交なんてとんでもない。」と私たちは目くじらをたてるかもしれませんし、ショックを受けるか

もしれませんが、大人たちがそれと同じことをしている、それ以上のことをしているわけです。まずは大人たちが襟を正す必要があります。ですから皆さんも夫がひょっとしたら韓国とかへ行って、タイとか行って、会社の慰安旅行だと言ってもその実態(全部が全部とは言いませんけれども)そのほとんどは買春ツアーです。もうバブルの頃はもう当然でしたけれども、今でもそれをやっている所はあります。公にしないだけで多くはそのようなふしだらなことを会社ぐるみでやっているわけであります。

そして、子供たちはどうかと言いますと、コンビニ行ってもトイレのすぐ手前には成人誌の成人向けコーナーというのがあって、そこには淫乱な図柄がもう表紙に露骨に描かれているようなもの。いわゆる昔のエロ本というもの、ビニ本というものが平気で陳列されているわけです。コンビニエンスストアに。子供でも出入りするのです。小さな幼稚園児でも出入りする、そういうところに置かれているのです。そして普通の本屋さんに行っても、少年少女の漫画コーナー。皆さんあまり行かないかもしれませんが、昔の少年漫画、昔の少女漫画とは全然違うのです。内容を見ていただければ目を疑うと思います。あまりの露骨な性描写にショックを受けますと思います。平気で子供たちが、セックスをするような図柄であったり、同性愛が当たり前であるかのように、それがまるで美しいものであるかのように描かれます。そういうものに子供たちはもう触れているわけであります。

もちろん子供たちは、今やインターネットや、また携帯電話やスマートフォンを手にしていますから、そこから無尽蔵にいろいろなセックスの情報を、性的に乱れた情報を手にすること、目にすることが出来るわけです。SNS というソーシャルネットワーキング、これも大きな罠となっております。GREEとかmixiという日本のものもありますし、そうしたものに本来は小学生は加入できないわけです。使えないはずなのに小学生も使っている。大人たちは見て見ぬ振りをしているわけです。そうしたものを使って、LINEなどもそうですけれども、そういったものを使って援助交際、出会い系サイト、いろんな誘惑の中で子供たちは性の情報に汚染されてしまっているのです。もちろん大人として出来ることもいっぱいあると思います。それを完備する必要があります。有害サイトをブロックするようなフィルタリングも積極的に実施していく必要があります。でも大人たちは無頓着です。

この3節に書かれているのは『他国の女のくちびるは蜂の巣の蜜をしたたらせ、その口は油よりもなめらかだ。』まさに画面から出てくるいろんな情報、それはなめらかです。すぐにお金になる。5万円、6万円、たかだか1時間そこらでぱっと手に入る。それで子供たちは好きなブランド物の服やバッグを買えるわけです。好きなおもちやを買えるんです。甘い言葉です。なめらかな言葉です。大人たちもこういったものに引っかかるわけです。誘惑は常にあります。見知らぬ人と会話をするというのは、顔と顔を合わせて会話をするのも勿論含まれますけれども、現代は画面の向こうの異性と、見知らぬ女と会話することが出来るわけです。チャットというものもあります。甘い言葉がそこで語られるわけです。「自分の妻は、自分にはこんな優しい事は言ってくれない。でも画面の向こうの彼女は自分のことを褒めてくれるし、評価もしてくれる。」会社の同僚もそうかもしれません。異性と一緒に仕事をしていて、妻よりも事実上1日の大半を過ごすようなことになると、その会社の女子の同僚がいろいろと自分のことを褒めてくれたり評価したりしてくれているうちにだんだんと上司と部下の関係からいつのまにか男女の関係に入ってしまう。そんなことも皆さんは自分の周りにも見聞きしていると思います。見知らぬ女が、まさに蜂の巣の蜜をしたたらせ、その口は油よりもなめらかなんです。

4節を見ていただくと『しかし、その終わりは苦よもぎのように苦く、もろ刃の剣のように鋭い。』最初は甘いんですけども、最後は必ず苦味で終わるということ。一時の快樂、一晚の快樂は、一生の後悔に終わるということです。その時はスリル満点です。非日常的な、まるでファンタジーのような想像をそそりながら夢中になるわけです。でも終わってみたら現実に戻り、自分がしてしまったこと、そして自分がやってしまったことによって失うものを目の前にしたら、もう苦々しい思いしかないわけです。「なぜ私はあんなことをしてしまったのだろうか。」家庭崩壊も、ひょっとしたら性感染症によって健康を失うこともあるかもしれません。HIVに感染することもあるでしょうし、また望まない妊娠もあるでしょう。その結果、中絶ということも起こってくるかもしれません。勿論それだけではありません。これは男女含めての話をしています。不倫をしたり、不特定多数の異性と性的に交わることで心理的なダメージも避けられま

せん。いろんな人とセックスをしてしまうことで、自分の尊厳というものも失っていくわけです。これは箴言 6 章でも見たいと思うんですが、ちょっと先取りして 6 章 32 節に『女と姦通する者は思慮にかけている。これを行なう者は自分自身を滅ぼす。』“自分自身”という言葉は直訳で「魂」です。夫婦という結婚の枠組み以外でセックスをすれば、あなたの魂が減んでいくんです。あなたの中の何かが死ぬんです。社会的地位を失ったり、家族を失ったり、性感染症や HIV の感染によって健康を失うこともあるでしょうが、でもそれ以上にあなたの中の何かが失われるんです。これが最大の損失と言っていると思います。これはまた 6 章に入ってから話したいと思うんですけども、つまり必ず甘かったものは、最後は苦々しいものに終わるということです。後悔してもしきれない取り返しのつかないことになっていくということです。罪悪感、罪責感もあります。物に例える事はちょっと不適切だと思うんですけども、まだ使っていない未使用品と、使い古された使用品では、もちろん価値が違うわけです。中古品です。未使用の物と中古品では、全く価値が違います。人間が物と同じだとは言いません。ただセックスのビジネスにおいては女性は物と同じ、商品と同じ扱いをされますけれども、たゞもし若い女性が処女であって、結婚前に男性に触れることもなく純血を保って、そしてやはり男性も、結婚相手も童貞で、まさに未使用の状態で二人が出会うならば、それ以上に価値のある夫婦の契りはないと思います。でも既に使用品であるならば、残念ですけどもクオリティーは間違いなく落ちてしまうんです。このように聖書で言うところの姦淫の罪、性的不道德の罪は必ず苦々しさをあなたにもたらしめます。ありとあらゆる苦々しさです。いろんな領域における苦々しさです。失うものも計り知れません。本来味わえるはずの完璧な喜び、満ち。それも味わえないのです。

4 節の終わりに『もろ刃の剣のように鋭い。』という言葉も興味深いです。なぜならば聖書においてヘブル 4 章 12 節には『神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭い。』と書いてあります。神の言葉も両刃の剣よりも鋭いのです。でも、この性的罪も両刃の剣のように鋭い、とあります。神の言葉は生きていて、力があって、両刃の剣よりも鋭いので、それが心に突き刺さるならば、それはまさに活人剣となります。逆に医療メスのようにしてがん細胞を切り除くような、切除するような、人を生かすための剣となって使われるわけです。その一方で同じように、両刃の剣のように鋭いこの性的罪は、活人剣ではなくて文字通りの殺人剣です。ただ人を殺すだけです。生かす事は決してありません。ただ殺すだけです。文字通りに命を奪う場合もあるでしょう。社会的地位を殺すということもあるでしょうし、評判を殺すということもあるでしょうし、その人の心の中の何かを、喜びを殺す。もう家族とは同じ関係にはなれないんです。全部死ぬんです。恐ろしいですね。この警告の言葉に皆さんしっかり耳を傾けて頂きたいと思います。そして、これをしっかりあなたの息子や娘、孫たちに伝えて頂きたいと思います。必ず死をもたらします。

5 節にも『その足は死に下り、その歩みはよみに通じている。』とあります。ローマ 6 章 23 節にも『罪から来る報酬は死です。』とあります。性的罪はその最たるものです。その足は死に下って行く。“よみ”というのはヘブル語で“シェオル”と言って、それは死者が行く所。“墓場”とも訳せますけれども、いわゆる地獄のようなところです。必ず滅びに繋がっていくということです。実際にこういうデータがあります。これは中国の話です。中国の自殺の原因のトップは、婚姻や結婚や恋愛で約 30% を占めているそうです。そのほとんどは夫の不倫によるものだという事です。これによって中国では毎年 25 万人もの不倫をされた、浮気をされた妻たちが命を断っているということです。日本の自殺の原因は大体が仕事の問題、経済問題がほとんどです。または家族関係。夫に浮気されたから死ぬなんていう女性は日本では少ないとは言いませんけれども、中国ほど多くはありません。中国では自殺の原因のトップが婚姻、結婚、または恋愛ということです。夫が浮気したから、彼氏が浮気したから、それで死んでしまう。恐ろしいですね。

そして 6 節『その女はいのちの道に心を配らず、その道筋は確かでないが、彼女はそれを知らない。』“いのち”という言葉も、いろいろな命があるということも覚えて頂きたいと思います。肉の命もあります。霊の命もあります。永遠の命というのがあるわけです。これらに心を配らない、とあります。性的罪に関して、大体誘惑に駆られて陥るケースは、もう後先のことを考えない。もしその前に冷静になって後先のことを考えれば、もし彼女と不倫をすればこういうリスクが伴うとか、そういうことを冷静に分析して、その上で不倫をする、浮気をする、婚外交渉をする、婚外交渉をする。そういう人はほとんどいないと思います。大半は目先のことだけ。その場の衝動をただ満たしたいだけ。その場

の激しい性欲を満たしたいだけ。その場限り、その時さえ気持ちよければいい。その時さえ楽しければいい。もう後先のことは考えません。でも私たちは後先のことを考えます。考えなければいけません。行き先は死であります。クリスチャンの場合は、行き先は天国と決まっていますけれども。でも、クリスチャンでも性的罪を犯す人はいっぱいいます。クリスチャン夫婦でも浮気をすることがあります。クリスチャンでもポルノ中毒者もいっぱいいます。牧師でもそういう人がいっぱいいます。彼らはその先のことを考えていません。だからこのような罪に軽く陥ってしまうわけです。救いを失う事はないかもしれませんが。本当にその人が救われているならば、という前提ですけれども。でも、明らかに死後の世界に大きな影を落としてしまいます。つまり永遠を左右してしまうということです。クリスチャンが罪を犯せば永遠における報いも変わってしまうのです。もちろん地上の信仰生活にも直接的な負の影響ももたらします。本来神様によって祝福されるべきものが受け取れない場合もあります。そして未来にわたって、天国で味わえるはずの報いが、天の宝が、冠が受けられないというケースもあるわけです。ですから私たちは気軽に罪を犯そうとは思いません。確かに罪を犯してもイエス・キリストの十字架の血潮によってすぐに洗いきよめられ、すぐに赦しを受けることができます。でも、罪の結果は帳消にされないのです、取り消されないのです。これはどんなクリスチャンでも甘んじて受けて、蒔いた種を刈り取るということをしなければいけないのです。でも、種を蒔かなければ刈り取らなくていいのです。なのに、後先を考えないので、私たちはくだらない種を蒔き、自分に害しかもたらさない種を蒔いてしまうわけであります。ですから常にその先のことを子供たちにも伝えて頂きたいと思えます。「今さえ良ければいい。愛し合っているんだからいいじゃないか。どうせ結婚するつもりだから。」とか。その先のこと、後のことをよく考えるように、今から小学生の娘に伝えて下さい。小学生の孫に伝えて頂きたいと思えます。中学生では遅過ぎます。小学校高学年でも遅過ぎます。

7 節に『子どもらよ。今、私に聞け。私の言うことばから離れるな。』しつこく言って下さい。“子どもらよ。”今度は複数形で言っています。「子どもらよ、明日、いつか、そのうちに、大人になってから、高校生になってから」なんて書いてありません。『子どもらよ。今、私に聞け。』と言っています。この“今”は、もちろん子供の中である程度性的知識を受け止められる年齢というものがあると思えますので、でも少なくとも女の子であれば初潮がもう始まるその前後、ある程度性教育は行っておかなければなりません。もっとショッキングなことを言うと、小さな子供たちは小児愛者たちの性的な対象となっています。子供たちは全然知らずに無関心でも、大人たちはそうとは限らないんです。私はいろんなニュースを見てきましたけれども、何年か前に韓国では生まれたばかりの生後 10 何ヶ月のその赤ちゃんに性的な行為をしたと。親父が自分の赤ちゃんに対してです。考えられない時代です。勿論その赤ちゃんに性教育を施すなんていうことは出来ないわけですが、でも常に大人たちは目を光らせて守っていく必要があります。そしてなるべく早い段階で、子どもがある程度理解出来る歳になったら、早過ぎると思わずにむしろ遅すぎるかもしれませんので伝えて頂きたいと思えます。繰り返して言いますが、皆さんの子供時代とは全然違うということ。子供たちが直面しているこのおぞましい現実というものは、想像つかないと思えます。ですから、学校に送り出していれば安心だと思っているかもしれませんが。「学校ではちゃんと性教育もしてくれるはずだから、別に親の私がしなくても。」なんて思っているかもしれませんが、とんでもありません。学校の教師があなたの息子や娘を狙っているかもしれません。「じゃあ、学校なんか行かせられませんね。」と思うかもしれませんが。「全員、ホームスクールにしなければ。」と思うかもしれませんが、でもホームスクールにしたからといって安心とは言えないわけです。子供を守る事が出来るのは、親のあなただけです。お爺ちゃんのあなただけです。ですからしっかりと子供たちには、親が居ないところでも自分で自分の身を守る事が出来るように、このことを伝えておく必要があります。危険を感じたら、誘惑を感じたら、どうしなければいけないのか。何が正しいことなのか。「周りがやっているから。友だちに勧められたから。」そんなことで揺り動かされることのないように。そんなことで巻き込まれることのないように、しっかりと親としての責任を私たちも果たしていく必要があります。大人としての責任です。教会には沢山の子供たちが集まっています。私たちはクリスチャンの大人として、子供たちのことにも目をかけていく必要があります。教会にもいろんな人が来るわけです。教会も注意しなければいけません。今とにかく聞くように。いつかそのうち、ではなくて、今。そして繰り返

し、今です。「もうそのことは聞いた。もうしつこい。うるさい。ウザイ。」と言われても、何度でもです。

そして8節『あなたの道を彼女から遠ざけ、その家の門に近づくな。』と。家の門というのは勿論不倫相手の家の門とも言えるでしょうし、いわゆる売春宿の門、風俗店の門、歌舞伎町の入口、権藤の入口、いろんなふうに見えると思います。またはポルノサイトの入口、ポルノサイトの門もあるわけです。

今度は、このポルノというものが男性に及ぼす悪影響、それは計り知れないのですけれども、それをいくつか皆さんにまとめてご紹介しておきたいと思います。まず5つのポイントです。ポルノが男性に及ぼす悪影響です。

- ①女性を自分の性欲を満たす道具として見るようになる。扱うようになる。
- ②不必要に性欲を増長させる。
- ③マスターベーション中毒にさせる。(自慰行為です。オナニーとも言われるものです。)
- ④不健全な妄想を抱くようになる。(聖書で言うところの情欲の目で女を見るようになるわけです。)
- ⑤妄想と現実を混同するようになる。

インターネットポルノ中毒者に見られる特徴のリストも紹介しておきたいと思います。

- ①1日中セックスやポルノをのことを考えている。
- ②自分が最初意図していた時間よりも、より長くポルノを見てしまう。
- ③繰り返し繰り返しやめようと試みるが、毎回失敗に終わる。
- ④直面している問題から避けたり、自分が持つ無力感や不安、ストレス等を和らげるためにポルノを見る。若しくはマスターベーションをする。
- ⑤日に日により刺激的、或いはより危険な内容のものを求めるようになる。(だんだん大人の女性では満足いかなので小さな子供にとか、普通のセックスでは満足できないのでレイプするとか。そういったものです。)
- ⑥自分がポルノを見ていることを隠すために周りの人、特に家族の者に嘘をつく。
- ⑦児童ポルノ等の不法なポルノを見る。
- ⑧本来なら仕事や学業、或いは家のことをするための時間をポルノの鑑賞に充ててしまう。
- ⑨ポルノを見るために意図的に自分の社会的活動、仕事等や、他人とのコミュニケーションを制限する。
- ⑩ポルノを見ることが出来ない時苛立ち、情動不安、落ち着かない状態、或いは苦痛等を持つ。
- ⑪ポルノ中毒行為のため、結婚生活や仕事、或いは学業等を危険な状態にしてしまう。
- ⑫ポルノ関係の商品を頻繁に購入するので、経済的に深刻な状況になる。

これがポルノ中毒者たちの特徴であります。

そして、アメリカのペンシルベニア大学の認知療法センターというところでメアリー・アン・レイデンという博士が、インターネットのポルノ中毒は麻薬中毒と同じである、ということを主張しています。コカインという麻薬は体外に排出出来るんですけれども、ポルノ画像は永遠に記憶に残るのでポルノ依存症はコカイン依存症よりも回復が難しいと訴えております。

また精神科医のジェフリー・サティン・オーバーという博士も、ポルノが身体に及ぼす影響をこのように指摘しています。「他の依存症とは異なりポルノは最も効果的な依存性物質を直接体内に発生させる。つまりポルノは自慰行為を、マスターベーションを誘発し、それによりオピオイド(アヘンに似た作用を持つ物質)の自然分泌をもたらす。ポルノにはヘロインには無い作用があるのだ。アルコール中毒、ニコチン中毒、または薬物中毒と同様に一旦体内に化学物質が分泌されるとポルノ中毒者の全思考はただ一つのこと、すなわち射精をすることにのみ集中します。ほんの数分だけのつもりが、一度見始めるや途中でやめることができなくなり、結局何時間もポルノの前に釘付けの状態になってしまうのは、この脳から分泌される化学物質によるとされます。」

これはNHKの全国調査ですと、20代から40代の男性のうち27%が「アダルトビデオで見たことを実際に真似してみた。」と答え、また25%が「したいと思ったがしなかった。」と答えました。この結果からこの年齢層における男

性の5割以上がポルノを単なる娯楽として見るのではなく、自分のセックスの見本として見ていることが伺えます。

ですから結婚前に男性がポルノ中毒で、アダルトビデオで育ってしまうと、妻に対してアダルトビデオのその女優と同じようなことを要求するわけです。そしてそれに応じないと不満となり、そして妻以外の異性によってその自分の性衝動を満たそうと今度は不倫に<sup>はし</sup>奔っていくわけでありませぬ。

2007年3月27日のニュースに『**アダルトビデオと同じことをしたかった。小4男児が同級生を暴行。**』という見出しで事件が報道されました。『兵庫県尼崎市の市立小学校で昨年11月、4年の女子児童(当時10歳)が同学年の男子児童に呼び出され、男児宅で性的暴行を受けていたことが27日分かった。男児はアダルト映像に触発され、「同じことをやってみたかった。」と話しているという。』小学校4年生です。小学校4年生の男の子に家に呼ばれたからと、小学校4年生の女の子が行って見たら、そこで犯されたんです。レイプされたんです。恐ろしい時代です。子供同士戯れているだけと思うかもしれませんが。そうじゃないんです。もう小学校4年生にして、もうセックスがやめられない状態になっているわけです。恐ろしいですね。ポルノ中毒。子供も舐まれています。

また今お話している事は、実は私が既にブログの方でも記事に書いたりもしているのですが、皆さんも耳にはされているかもしれませんが。もしもう一度目にしたいという方がいらっしゃれば、ブログの方で今お話したものは読むことが出来ますので、後で読んで頂きたいと思えます。そして、そのブログにも書いているポルノ中毒に関する統計データとして、ポルノサイトは現在240万以上あり、ポルノに関連したネットのページ数は3億7,200万に達するという。しかも新規のポルノ関連サイトが毎日200も誕生していると言われる。ポルノのウェブページ数は推定4億2,000万で、毎日266の新たなポルノサイトが生まれているというデータもある。実にウェブサイト全体の12%がポルノサイトである、ということです。子供はインターネットをいつも見ている。有害サイトの、アダルトサイトのフィルタリングをあなたはしているでしょうか。していなければ子供は100%ポルノサイトを見ている。子供がアクセスしなくても勝手に向こうから入って来るんです。気を付けて下さい。携帯電話を持たせています。フィルタリングしていますか。スマートフォンをうちの子は持っています。うちの子はよく私のiPadで遊んでいます。インターネットを見れる環境にあれば、放っておかないで下さい。

インターネットの検索ワードで最も多い言葉は、“sex”です。“ポルノ”は4番目に入るそうです。ポルノ関連の検索は、ウェブ検索全体の25%を占めています。インターネットのダウンロードの35%がポルノ関連です。ウェブサイト訪問の60%はアダルト関連サイトであります。インターネットポルノの約20%が児童ポルノです。毎月平均ポルノサイトの訪問者数は7,200万人。ポルノサイトの視聴者は、77%は男性です。平均年齢は41歳。平均年収は6万ドル。(これはアメリカの数字ですが)うち46%が既婚者です。結婚している男性です。残りの23%は女性です。世界人口の10%がポルノ中毒に陥っていて、うち28%が女性というデータもあります。ポルノサイト接続の70%が午前9時から午後5時までの就業時間帯に集中しています。あなたの夫は朝から会社に出勤して何をしていますか。会社でコンピュータを使ってポルノサイトを見ているんです。それが普通なんです。そういう同僚があなたの夫の隣でデスクワークしているように見せかけて、または取引先に行って営業していると言っているかもしれませんが、彼らはスマートフォンを使ったり、またインターネットカフェか何かに入って、そこでアダルトビデオを見ているわけです。特殊なケースじゃないんです。それが今の日本のほとんどの男性の中で見られる姿であります。

アメリカの離婚訴訟の半数以上にインターネットポルノ関連があるということです。ちなみに7、8年前は、離婚の原因にインターネットポルノが原因であるというその事由は全く見られなかったということです。つい最近です。ここ10年ぐらいということです。アメリカの話ですが、47%の家庭がポルノ問題を抱えています。『**彼女の家の門に近づくな。**』彼女の家の門は、あなたのリビングルームにあるかもしれませんが。あなたの書斎にあるのかもしれませんが。子供の部屋にもあるのかもしれませんが。テレビもインターネットとつながる時代になりました。子供たちはあなたが居ない時、いつでも見れます。制限をかけなければ。でも今度は制限を解くようなことも子供は学ぶようになります。心配なら、それらを遠ざけて下さい。場合によってはゴミの日に出さないといけないうちの子供は、ポルノ中毒になるよりは、インターネットがない生活の方がよほど幸せなのかもしれません。勿論インターネットは便利なもので、私もこ



の学びをするためにインターネット利用しています。でも注意しなくてはなりません。

2002年のロンドンの統計によりますと8~16歳の子供の10人中9人は「ポルノサイトを見た。」(ほとんど意図的ではないと。)見たくて見たんじゃないんです。勝手に広告として入ってくるんです。いろんなメールも入ってくるわけです。最初にポルノに触れた年齢は平均11歳。2007年インターネットポルノの最大の消費者は12~17歳。これがロンドンです。ため息をつくしかないというふうに感じるかもしれませんが、でもこれは私たちとは全然関係ない、かけ離れた対岸の火事のような話ではないということを知って頂きたいと思います。アメリカに行ってもイギリスに行ってもコンビニには成人誌は置いてないんです。そんなエロマンガが普通の書店に、平安堂だとかTSUTAYAに置いてないんです。考えさせられます。

もう一度テキストに戻って頂きたいと思います。確かに若ければ若いほど性欲も強くて、誘惑も強くて、なかなかそれを制限したり、コントロールしたり、抑制するという事は難しい。これは難題だと思うかもしれませんが。人間の基本的な欲求というものがあります。それは生存するための欲求、サバイバルのための欲求、また生理的欲求とも言えるもの。その第一は呼吸欲です。息をしなければ皆死にます。第二は飲水欲。水を飲まなければ生きていけません。熱中症にもなります。3番目が食欲。4番目が排泄欲。おしっこ、うんちをしなければ大変です。そして5番目が性欲。6番目が睡眠欲。そういう欲求があるわけです。でも性欲は排泄欲よりも後に来るんです。おしっこを我慢する、うんちを我慢するよりも、性欲は我慢出来るんです。我慢できないものじゃないんです。「我慢できないからコンドームをつけてどんどんセックスすればいい。どうせ我慢できないから。」本当にそうなんですか。「でも、そもそも神様はどうして性欲なんてものをつくられたんですか。こんなトラブルばかり起こすものを。神様はどうしてこんな厄介なものを人間に組み込まれたんですか。生殖活動をするために、子供を、子孫を生み出すためには確かに必要だと。でもそれだったならば、その時にはボタンを押したらそれで子供が生まれるだけの必要な性欲が与えられ、そしてもう終わればもう一切性欲に駆られることはない。ボタン1つで、スイッチオン・オフでそれで済ませるようなことは出来なかったのか。」とつい考えてしまうこともあるかもしれません。「性欲を与えておきながら、姦淫するなど。これはフェアじゃない。」とあなたは思うかもしれません。

創世記1章に初めの人のことが描かれています。そこに神は「**生めよ。ふえよ。地を満たせ。**」と命令されました。アダムとエバという夫婦は、神様によって「**生めよ。ふえよ。地を満たせ。**」、結婚という枠組みの中で性交を結び、セックスをして、そしてどんどん子供を産み、増やせと。そのために性欲というものも神は与えられたわけです。性欲は汚らわしいものではありません。これはきよいものです。本来「**生めよ。ふえよ。**」という生殖行為には欠かせない、神の計画を推進する上でも欠かせないものだったわけです。逆にもし人間に性欲が与えられなかったならばどうなるのかと。男に特に性欲が与えられなかったらどうなるのか、よく考えてみて下さい。皆さんの夫に性欲が与えられなかったらどうするか。皆さんの夫は朝から晩まで釣りをしているかもしれません。朝から晩までゴルフに行ったり、麻雀をやったり、何もしない、パチンコ三昧、何の生産性もあることをしないわけです。でも性欲を与えられることで男は生産性のあることをするようになります。子供を生んで家庭を守る。そのために働く。そのために汗水垂らして生産性のある仕事をするわけです。でも性欲がなければ自堕落な生活をして、ただ娯楽に一日無駄に使うだけあります。ですから性欲はあくまでこれは良いものとしてつぐられ与えられたのです。

でもこの良いものがサタンによって歪められてしまった、汚されてしまったということです。本来夫婦の間だけで満喫されるべきこの性欲というものが、結婚の枠外でもはみ出して利用される時、それは不法な性行為ということになります。そして、それは罪として計り知れないダメージをもたらすわけです。聖書によれば夫婦は、キリストと教会の関係を表す神秘的な結合を象徴しています。あなたの夫はキリストを表し、妻のあなたは教会を表す。それが、神が意図した夫婦の姿です。クリスチャンの夫婦を見ると、キリストと教会の関係が目に浮かぶようだ。これが、神が意図した姿です。その夫婦の間で性欲というものが健全に満たされていけば、これ以上の喜びはないわけです。これ以上の楽しみはないわけです。でもサタンは、このキリストと教会の関係を破壊したいわけです。だから夫婦にはサタンの、悪魔的な激しい誘惑というもの、プレッシャーというもの、妨害というものが及んでくるわけであり、「結

婚したらもうそういう性的な問題からは解放される。もう妻がいるんだから、夫がいるんだから、もうそんな不特定多数の異性と関係を持たなくても済むようになる。」と思ったら大間違いです。「性欲はもう夫婦の間だけで処理されるからもう大丈夫。結婚すればもう大丈夫。不品行の罪なんか犯さないで済む。」と思ったら大間違いです。サタンは夫婦関係を破壊しようと常に誘惑を仕掛けてきます。夫婦が破壊されれば、親子関係も破壊されます。親子関係が破壊されれば、この社会全体が破壊されます。教会なんか崩壊するわけです。ですから子供や孫に対する性教育、これを考える上で大人の私たち夫婦が、まず今自分たちがどういう状態に置かれているのか。キリストと教会の美しい美しい関係を目指しているだろうか。そしてその目指す時には、必ず霊的な戦いがある、妨害がある、誘惑があるということも注意して、「大丈夫。」と思わないで下さい。危険だと思って下さい。夫婦がより一層これまで以上にキリストと教会の関係を目指していきたい、と決心したその瞬間から、サタンのあからさまな妨害が始まります。ですから時に、あんな敬虔なクリスチャンの夫婦だと思っていたのに不倫をすとか、あんな立派な尊敬出来る牧師先生だと思っていたのにその牧師が不倫をすとか。そういうことが起こり得るんです。そうした教会のスクンダルは、もう見たくないほど沢山繰り返されて来ております。有名な人でも例外ではありません。神に用いられたという器でも例外ではありません。リバイバリストと呼ばれる人たちでも、聖霊の器と呼ばれる人たちでも例外ではありません。

テキストに戻って頂いて 9～10 節。『<sup>9</sup> そうでないと、あなたの尊厳を他人に渡し、あなたの年を残忍な者に渡すだろう。<sup>10</sup> そうでないと、他国人があなたの富で満たされ、あなたの労苦の実は見知らぬ者の家に渡るだろう。』性的罪の結果、結婚前にセックスをする、結婚してから伴侶以外の者とセックスをする、不倫をする、ポルノ中毒に陥る。そこで失うものが計り知れないということ。ここでも教えられております。失ってしまうものが計り知れないと同時に、本来得られたはずの神からの祝福も、これは大損としか思えないわけです。「不倫さえしなければ今頃はこうだった。」とか。勿論クリスチャンとして不倫の罪を犯してしまった場合、その罪を神の前で告白すれば神は赦して下さいます。でも不倫しなければ、本来今頃もっと素晴らしい、もっと栄光に満ちた、喜びに満ちた、平安に満ちた祝福が注がれていたはずだということも忘れてはなりません。だから後悔は避けられないんです。でも後悔したくなければ、これからは二度と同じことを繰り返すまいと堅い決心をしていかななくてはならない。そして同じ轍を自分の息子や娘たちに、孫たちには踏んで欲しくないということを、ソロモンと同じように決心して、彼らにしっかりと「**今、聞きなさい。何度でも言う。今、聞きなさい。**」反抗されようと、逆ギレされようと伝えていく必要があります。「あんな風俗遊びしなければ。あんなインターネットポルノを見なければ、今頃は。」その結果失ってしまったものが多大である。中毒症になってしまった。性感染症になってしまった。精神面では後ろめたさがある、罪悪感がある。感情面でも後悔がある。傷もある。人間としての尊厳、価値が失われてしまう。評判も失われてしまう。社会的地位も失われてしまう。家族すら失われてしまう。仕事も失うかもしれませんし、健康も失うかもしれない。リスクは大き過ぎます。このことをしっかり子供たちに、若者たちに伝えて頂きたいと思えます。一時の快樂、その場の衝動、性欲を満たすことが、どれほど危険な行為なのか。結婚するまで待つ。結婚するまで純潔を保つ。結婚するまで我慢する。おしっこやうんちを我慢するよりも簡単に出来るんだということを伝えて頂きたいと思えます。でもこの世は、そのようには教えないんです。学校ではそのように教えません。「それは無理だ。ダメだ。コントロールなんか出来るはずがない。」と、それが前提です。何の生理的な根拠もないんです。医学的な根拠もないんです。

11 節の方に目を移して下さい。『そして、あなたの終わりに、あなたの肉とからだが減びるとき、あなたは嘆くだろう。』繰り返し性的罪の結果がどんなに大きなダメージをもたらすのか、弊害をもたらすのか、損害をもたらすのかということが、強調されています。「肉とからだ」という表現ですけれども、新共同訳聖書では「肉も筋も消耗し」と訳しています。これは勿論健康を失う姿です。性的罪によって健康を失うリスクがあります。先ほども触れたように、それは1 つは性感染症 (HIV も含めたもの) があります。ローマ1章 26～27 節をここで参照して頂きたいと思えます。

『<sup>26</sup> こういうわけで、神は彼らを恥ずべき情欲に引き渡されました。すなわち、女は自然の用を不自然なものに代え (これはレズビアンです。同性愛です。)、<sup>27</sup> 同じように、男も、女の自然な用を捨てて男どうしで情欲に燃え、男が男と恥ずべきことを行なうようになり (ゲイです。同性愛です。)、こうしてその誤りに対する当然の報いを自分の身に

(肉体に)受けているのです。』ここでは特に同性愛の罪の結果、ありとあらゆる性感染症、とりわけ HIV というもの、それが 1 番多く感染者が見られるのはやはりゲイ・コミュニティということでもあります。これは現実であります。若者たちにもこの現実をしっかりと知らせていく必要があります。

これは日本の高校生の話です。『**高校生の性病大国、日本。世界一。**』という見出しで以前ブログに書きました。そのデータとして、高校生の約 10 人に 1 人が性感染症の一種、クラミジアに感染していることが旭川医科大学が実施した初の大規模調査で分かった。感染していた人は男子生徒の 7.3%、女子の 13.9%で、全体で 11.4%。この全員に自覚症状がなかった。年齢別では、16 歳の感染率が最も高く、男子 8.6%、女子 23.5%に達している。無症状のクラミジア感染率は欧米でも人口の 1~2%止まりで、日本の実態は世界最悪だと言われています。世界最悪です。ヨーロッパの何十倍と言われています。

そして、東京都衛生局の調べによると男性の平均感染率は 21.4%、女性が 35.7%であることが分かった。10 代から 50 代まで年代毎に統計をとったが、各年代毎に平均していたようだ。ところが、10 代女性の感染率が 49.0%と目立って高かった。つまり 10 代女性は 2 人に 1 人が感染していたのだ。2007 年の 1 年間の国内 HIV 感染者、エイズ感染患者の報告は 1,500 件で、感染者報告は過去最多である。一日に 4 人が感染している計算になる。日本は先進国で HIV 感染者が唯一増加し続けているという報告であります。特にこれは東京の女子高生のクラミジアの感染率のことを言っています。東京に行ってみて下さい。女子高生を見て下さい。その半分はクラミジアにかかっているんです。現実がこうやって数字に上がってきているわけです。

でも、汚らわしいとか、ふしだらだとか、親は一体何をやっているんだ、と言うような非難めいたことをこの少女たちに私たちは決して言ってはなりません。彼女たちがこうなってしまったのは社会の責任、私たちの責任。とりわけ社会の責任と言う時、私が言うこの責任は、地の塩であり世界の光であるクリスチャンの責任だということです。政府の責任じゃないんです。本来、地の塩であるのはクリスチャンだけなんです。世界の光と呼ばれるのはクリスチャンだけなんです。この世が腐敗していることをこの世のせいにははいけません。この世が腐敗していることを学校だとか親のせいにははいけません。その責任は最終的には、究極的には、クリスチャンの私たちに問われるということです。「あなたたちは知っているのになぜ警告しないのか。なぜ忠告しないのか。なぜ教えてあげないのか。なぜ黙っているのか。学校に任せきりです。教会に任せきりです。」ダメなんです。私たちは地の塩、世界の光。クリスチャン一人一人がそのような存在としてこの世に召されて、置かれているはずなんです。ですから私は自分の責任と思って今このことを語っています。牧師が語らなければ誰が語るのか、と思って語っています。そして皆さんも牧師ではなくても、1 クリスチャンとして私から聞いたことを必ずバトンタッチして、皆さんの置かれているその現場に伝えていく必要があります。私は学校には行けません。でも学校に子どもを行かせている親ならば学校に行けるはずなんです。私は病院には行けません。産婦人科とか。でも皆さんは女性としてアクセスがあるかもしれません。医療関係者はどうでしょうか。私は患者とは直接話が出来ません。個人的な知り合いならば別ですけども。今日も助産師の人が来ているので、私よりも遥かに詳しくいろいろなことを伝えて下さるはずですけども。でも、クリスチャンがそれぞれ置かれている場所、家庭の中。私はそこまで踏み込んで行けません。あなたの娘に私はこのことを直接伝えることは出来ないんです。でも母親のあなたが、父親のあなたが教えることが出来るならば、そうすべきです。職場ではどうでしょうか。あなたの同僚のオヤジたちは、どうやって子供を育てたら良いのか分からない。どうやって性教育を施したら良いのか分からない。ママ友たちはどうでしょうか。お母さんたちはどうでしょうか。行き詰まっているならば、あなたが教えてあげなければいけないということです。私たちは地の塩、世界の光であります。そして私たちがちゃんと機能すれば、この現状はきっと変わると思います。劇的に変わるかどうかは何とも言えないですけども、というのはクリスチャンの数というのは本当に少ないからです。プロテスタントの数で言うならば、人口比に対して 0.2%です。でもそれは教会に通っていない所謂幽霊会員も含めての数です。日曜日には教会に来ない人たち、教会活動が事実上行われていないそういうクリスチャンたちも含めてプロテスタントは 0.2%ですから、ちゃんと教会に来て聖書を学んで礼拝の実態があるようなアクティブなスピリチュアルなクリスチャンの数というのは多分その

10分の1位だと思います。0.02%。その私たちが、皆さんが地の塩、世の光でなければならぬんです。わずかでも微々たるものでも真っ暗闇の中にマッチ1本でも灯されれば、そこは明るくなるんです、暖かくなるんです。今、世の中は真っ暗闇です。全然明るくありません。わずかな光でも光を求めているんです。必要とされているんです。

今度はクリスチャンのポルノ中毒者に関するデータも、(世の話ばかりしてはいけません。私たちは自分たちにも目を向けなければいけません。)これはアメリカのキリスト教機関による統計です。クリスチャン男性の53%が定期的にポルノを見る。クリスチャン男性の50%、女性の20%が、自分がポルノ中毒者であることを認めている。一般信徒の36%が過去にアダルトサイトを閲覧したことがある。うち44%は年に数回閲覧している。牧師の51%がサイバーポルノに強力な誘惑を感じる。37%が現在サイバーポルノで悩み、33%は最低1年に1回は閲覧する。(これは牧師です。)アメリカの成人のボーン・アゲイン(新生した)クリスチャンの29%は、性描写のある映画は道徳的に受容出来るとしている。例えば映画館に行って、ベツシーンがあるようなもの、ラブシーンがあるもの、濡れ場があるもの。「そのぐらい別に映画だからいいじゃないか。タイタニック、いいじゃないか。」イエス・キリストがああ映画を見てどう思われるか考えてみて頂きたいと思います。私もクリスチャンになる前は全くそんな道徳心は欠片もありませんでした。子供の頃からテレビを見れば裸の女性が出てきたわけです。夜な夜なサスペンス劇場とか見ていけば、必ず濡れ場があります。裸の女性が平気で出て、セックスシーンが子どもの目の前でも普通のゴールデンアワーに飛び込んでくるわけです。最近はその辺も規制がようやく図られてきているところですがそれでも、でもそういうもので育っていますから別に映画でそんな濡れ場があったところで何ともないわけです。麻痺してしまっているんです。ボーン・アゲイン・クリスチャンでもおよそ3割は「別にそんなただの映画じゃないか。ただのドラマじゃないか。それはアダルトビデオとは違う。R指定だけでも別に。18禁じゃないから。」何かがおかしいということを私たちは考えなくてはいけません。小さな子供とそれをあなたは一緒に見れますか。クリスチャンならばイエス・キリストと一緒にそれを見れますか。これが私たちの基準でなければいけないということです。でもこの基準がクリスチャンにないから、クリスチャンの家庭もどんどん汚染されているわけです。入口はちょっとしたテレビドラマ、ちょっとした映画、ちょっとした何かヌード写真かもしれません。でもそこからが入口となっていくことを忘れてはいけません。

focus on the familyという世界最大の家族ミニストリーの団体が、牧会ケアラインにかかる電話相談の20%が、ポルノ、性行為などの性的悩みであると発表しています。牧会ケアラインということは、要するに教会の中でいろんな問題を抱えているわけですがそれでも、クリスチャンたちが牧師に相談するその相談案件の20%は、セックス関連、ポルノ関連、不倫関連といったものです。そして、また牧師の57%が「ポルノ中毒が教会内の性的問題に最大のダメージを与えている。」と答えている。牧師の約6割が「教会の中にポルノの問題が非常に大きな問題となっている。牧会する上で悩みの種となっている。」ということ告白しているわけでありです。クリスチャンの60%が欲情の悩みを抱え、40%が以前に性的罪を犯したことを認めている。教会に定期的に通うクリスチャンの20%がポルノ中毒に陥っている。福音派の牧師、教会指導者の64%が1年以内にポルノを見たことを認めているというデータがある。アメリカの福音派のトップにいたテッド・ハガードという有名な人がいましたが、彼は同性愛にも反対、公に性的不道徳の罪を反対するという立場を表明しておきながら、彼は同性愛者の、ゲイの売春婦を買って、そして彼は言っていることとやっていることが全く逆であるということを世間に晒してしまったのであります。その事件以降、アメリカの福音派という、所謂アメリカの共和党を支えていたあの大きな勢力は、一気に衰退し下火となり、その結果それを受けて民主党が躍進し、今のオバマ大統領に票が結びついたということも、これも大きな影響であったということです。

テキストに戻って頂きたいと思います。11節の「肉とからだ」。性的罪には必ず様々な弊害がもたらされるんですけれども、その中で特に肉体的な弊害。これは性感染症によるものもあります。そしてまた心理的な問題。ポルノ中毒によってもうまともに正常な生活が送れない。仕事にも身が入らない。家庭生活もままならない。病は気からとも言われています。ですからポルノ中毒によって精神が病み、その結果肉体的にも性感染症以外のいろんな病的な症状も発症してくるわけでありです。

忘れていましたけれども1つここで紹介したい本があります。『ティーンズのための命のことがわかる本 生と性の

話』という、これはマナ助産院院長 いのち語り隊代表 永原郁子さんという人が書いている本があります。これはいのちのこば社から出ている本があります。非常に、ティーンズということですから10代の子たちに性教育を施す上ではよくまとまった本だと思います。実際はかなり具体的な内容も書いてありまして、私がお話したような情報も盛り込まれております。例えばこちらには、性感染症の種類と特徴ということで、いろんな病気が列記されています。クラミジアはさっき紹介しましたが、また HIV およびエイズの感染。また尖圭<sup>せんけい</sup>コンジローマという、これも性病です。今は性感染症、STD と言います。『ヒトパピローマウイルス(HPV)などが原因で起こる性感染症です。ウイルスの型によっては悪性化し、子宮頸がんを起こすことがあるので注意が必要です。外性器に鶏冠のようなイボ状のものができたときには感染したと分かりますが、子宮の頸部や膣に出来ると分かりにくく、症状が出にくいこともあります。子宮頸がんは癌の中でも唯一予防出来る癌と言われています。それは子宮頸がんのほとんど 100%がセックスによる HPV 感染が原因だからです。予防の方法としては2つの方法が考えられます。1つは HPV にかからないように子宮頸がんのワクチンの予防接種を受けておくこと。ただしこの予防接種は特定の型のウイルスにしか効きません。またワクチンは数年しか効果がないことを知っておいて下さい。(これに加えて最近ではこのワクチンによって死亡者も出てきています。ワクチンがあれば大丈夫と思っていたら大間違いです。)また男性の HPV ウイルスの保有の有無を調べる方法は今のところありません。1度でもセックス経験のある男性は HPV ウイルスの保有者である可能性があるわけです。ですからワクチン接種にかかわらず、女性はセックスを経験したなら子宮頸がん検診を定期的に受ける必要があるのです。もう一つの予防方法があります。(ここに注目したいと思います。)子宮頸がんのほとんどは性感染症によるものですから、結婚する相手が今までセックスをしておらず自分もそうであるなら子宮頸がんの心配は無いわけです。男性は将来結婚する相手を子宮頸がんから守るために、その相手が決まるまでセックスはしない。そして女性も同じくそのような結婚相手とだけのセックスなら子宮頸がんにかからないというわけです。この考えは他の性感染症にも当てはまりますが、他の感染症と違うことは症状がほとんどないだけでなく、検査でもウイルスの保有者かどうか分からないという点なのです。』非常にこういうことが具体的に書いてありますけれども、ただちょっと気になることがありまして、その点はこの本の批判となってしまうかもしれませんけれども、この中で例えば『男性の射精』というところ。『射精したいという気持ちが高まってくるのは自然なことで、マスターベーション(自分の手で刺激して射精すること)は悪いことではない。ただし、射精したいという気持ちで人に嫌な思いを与えたり、人に迷惑をかけるようなことになってはならない。プライバシーを守ることと清潔を保ちながら射精したいという気持ちと上手につき合うことが大切。』と。彼女は、マナ助産院院長 永原郁子さんという人。彼女は非常に名の知れた有名な方だと聞いています。神戸市の助産師の会長も務めている人だということで、クリスチャンでもあるので聖書的な視点でこういったセックス問題、特に彼女がやはり強調しているのは、結婚前までセックスはしてはいけない。純潔教育というものです。純潔運動というもの。これを展開して、いろんな本も書いて啓蒙活動もしているんですけど、ただこの中で特に射精に関して『男子の皆さんへ』というところでもこういうことを書いています。『例えばプライバシーの守れる場所でマスターベーション(自分の手で刺激して射精すること)によって射精するのは構いません。マスターベーションをし過ぎたら頭が悪くなるのかとか、病気になるのかという質問を受けますが、全くそんなことはありません。清潔にすることとプライバシーが守られれば大丈夫です。またスポーツなど体を動かすことで性衝動を発散させることも出来ます。射精したいという気持ちと上手につきあうことです。それが理性的な男性です。このように考えて彼女への性衝動をコントロールして欲しいのです。』2回もこの本の中に、「別にマスターベーションは男はやって良い。」と。これには私は猛反対したいと思います。実際に、彼女は女性だから分からないかもしれませんが、男性はただ手で刺激していればそれでいいと、それで満足するというものではありません。必ずこれはエスカレートするものなんです。そして必ず男性の場合は視覚的な刺激を非常に求めて、視覚によつての満足もこのマスターベーションには求めますので、どうしても情欲を抱いて異性を見ざるを得ない、想像せざるを得ない。そしてその刺激を掻き立てるために助けになるのがアダルトビデオとかポルノ映像というものです。これは絶対我慢出来ないものになってくるはずですから、自然に夢精という形で若い男の子が寝ている間に射精したというのは、これは

勿論自然な営みで、勿論それは罪とは言えませんけれども、ただ積極的に彼女の言うことを真に受けてしまえば「じゃあ、いいんだ。いくらでもマスターベーションしていいんだ。」ということになると、それは多くのクリスチャンの男の子たちを迷わせることになると思います。誘惑になってしまうと思います。他にもこの中には、子供が異性の家に行く時、男の子が女の子の部屋に行く時の話も出ています。私はそれすら「ノー！」と言います。自分に子供がいれば「行くな。」と言います。部屋は空けとくように、ということはアドバイスしてありますけれども、それは確かに賢明なアドバイスですけれども、親と一緒にいるならば別に異性の家に遊びに行っても構いません。でもドアを開けていようと、親がいつもドアの外から見ているわけではないですから、そんな甘いものじゃないということを私はよく知っています。これは経験者として言っているところもあります。私は大変な罪も犯してきましたし、大変な傷も負っていますから、この本ですべてを私は皆さんに紹介して勧めたいというふうには思っておりません。でもこの中に有益な情報もありますので、お薦め出来るものでもあります。そういったところを皆さん吟味して頂いて、最近こういう純潔教育ということがクリスチャンの間だけでなく、ノンクリスチャンの教育機関でも注目されるようになってきました。世間ではいろんな有名人たちが、結婚までセックスしないということを公言していろんな活動もしています。ですからだんだんティーンズの間にも浸透し始めていくのではないかというふうには思っていますけれども、クリスチャンは基本的には純潔教育。これが性教育の根本であるということです。セックスをしない。結婚までしない。そしてそれはただ禁欲を言うんじゃないくて、いろんなリスクもあるということ。そして結婚までセックスをしない。童貞と処女が結ばれた時のその計り知れないほどの満たしと喜び。それは中古品では絶対に味わえないもの。未使用品でなければ分からない、この祝福を神様が与えておられるということを、これを強調して「楽しみにしなさい。」と。むしろ積極的に若者たちに私は伝えていきたいと思います。

そしてまた話を戻していきたいと思います。12～13 節。『<sup>12</sup> そのとき、あなたは言おう。「ああ、私は訓戒を憎み、私の心は叱責を侮った。<sup>13</sup> 私は私の教師の声に聞き従わず、私を教える者に耳を傾けなかった。』“教師”というのは原文では複数形です。「教師たち」。私も1人の教師ですが、皆さんももう1人の教師です。若者たちは複数の教師たちに教え込まれる必要があるということです。親のあなたが、まず第一の教師として教える必要がありますが、学校でも勿論教えてもらえれば幸いです。でも学校で教えることと、あなたが教えることは違うかもしれません。純潔教育がなされずに、コンドームが配られるとか、コンドームの使い方。妊娠を避けるための性教育、性病にかからないための性教育。それでは勿論任せておくわけにはいきません。沢山の教師たちがこの世にはいますけれども、沢山の専門家と呼ばれる人たちがこの世には溢れていますけれども、でも私たちは聖書の言葉こそが真理の言葉であり、これがこれまでも沢山の人たちを文字通り死から守ってきたということです。このことも私たちは信じていますので、聖書の言葉を持って聖書的な正しい健全な性教育を積極的に施して行く必要があります。“性”は決してタブーではないのです。セックスだとか、そういう言葉を教会の牧師が言うんですか、と驚く方もいます。マスターベーションなんて、そんなこと恥ずかしいとか。でも現実が、もう子どもたちのそれは日常となっているということ。大人たちがそういう言葉を使わない、そういうことは一切考えない。逃げている限りは子供たちは捕まりません。子供たちはどんどんこの性の誘惑に、セックスの欲望に駆られて、あなたの手の届かないところにまで落ちるところまで落ちてしまいます。そうなる前にしっかりと教師として自覚を持って教えて頂きたいと思います。ここにいる全員は“教師たち”であるということを忘れてはいけません。子供に教えることがもう出来ないと思うならば、孫に教えて下さい。あなたの息子や娘に「孫に変なことを吹き込まないでくれ。そんな聖書の話なんかやめてくれ。学校と違うことを教えないでくれ。」と言われてもです。愛しているならば、それが真理だと本気で信じているならば。嘘を教えているんじゃないんです。嘘を教えているのは学校なんです。嘘を教えているのはこの世なんです。時代時代で彼らの性教育は変わってしまうんです。その都度その都度変えられてしまう、情報も変わります。でも聖書は数千年来書き換えられたことは1度もない真理。すべての世代に、すべての文化でも通用するものであります。自信を持って確信を持って伝えて頂きたいと思います。

“教師”という言葉はヘブル語の語源をたどると、“教師”というのは「投げる」という言葉から来ています。または

「弓矢を射る」という言葉から来ています。ですからあなたは教師として子どもたちに、若者たちに神の言葉を、ボールを投げるかのように、キャッチボールをするかのように投げかけて下さい。弓矢を射るように彼らの核心を射抜くような御言葉をいつも語って下さい。それが教師というものです。的外れなボールは投げないんです。ちゃんと的<sup>まと</sup>を射抜くような、そういうしっかりとしたティーチングをして頂きたいと思ひます。核心に触れるということです。子供の顔色を見ながら、子供がもううるさい聞きたくないとか、逆ギレしそうになるから、上手くなだめながらたぶらかしながらじゃないんです。教師はしっかりとボールを投げるもの。ストレートにビシッと、そして的をしっかりと射抜くような、そういう教えるのが教師であります。これが出来ない教師は、教師としては失格であります。「何を言っているのか分からない。」子供たちがムカつくならば、少なくとも子供たちはあなたからしっかり投げつけられたということを自覚しているということです。子どもたちがヘラヘラ笑って「ああそうですか。」と言っている限りは、全然的に射ていないということです。

また“教える者”という言葉も“教師”と勿論同義語として使われていますけれども、13 節の“教える者”の方は、原文ですと語源をたどると「打つ者」という言葉から来ています。“教師”は「投げる、射る者」。“教える者”の方は特に「杖で打つ」という言葉から来ています。杖とか鞭で打って訓練する。これは特に動物を訓練する時に使うわけです。矯正したりとか、訓練する時です。それと同じように、時に教える者、これは打つ必要があるわけです。勿論私は「体罰をせよ。」と言っているんじゃないやありません。そうではなくて、ちゃんと教師はしっかりと射抜くように。教える者はちゃんと打ちつけるように、訓練するように、という意味です。ただ痛い思いをさせるだけではない。これはちゃんと出来るように、正しく出来るようになるまで訓練を施すということです。ただ殴るんだったら、ただの暴力です。でも、この「打つ」というのは、「間違いを正して、正しく歩み続けることが出来るように、振る舞い続けることが出来るように、そこまで傍に居て離れずに忍耐を持って教え続ける、訓練する」というのが、ここに含まれているニュアンスですから。ただ怒鳴りつけて、はたきつけて、ボコボコにして言うことを聞け、というのではないんです。ちゃんと出来るまで子供たちから離れないんです。逃げていっても追いかけるんです。しつこいと言われても、ウザイと言われても、分かるまで離れないよと。あなたに何を言われようと、このことはしっかりと身につけてもらいたい。

テキストに戻って頂きたいと思ひます。14 節に『私は、集会、会衆のただ中で、ほとんど最悪の状態であった。』と。』折角聖書から正しい健全な性教育の教えるを受けたにもかかわらず、それに聞き従わない。その前には 12 節に『<sup>12</sup> そのとき、あなたは言おう。「ああ、私は訓戒を憎み、私の心は叱責を侮った。<sup>13</sup> 私は私の教師の声に聞き従わず、私を教える者に耳を傾けなかった。』憎み、侮り、聞き従わず、傾けなかった。その結果、私は集会、教会の中でもほとんど最悪の状態であった。「牧師があんなにも何度も何度も言っていたのに。不倫にはこんなリスクがあるとあんなにしつこいほどに、何時間もかけて同じことを繰り返して繰り返して言っていたのににもかかわらず、私は聞き従わなかった。私だけは例外だと思っていた。私だけは特別だと思っていた。私は大丈夫だと思っていた。私には該当しない、当てはまらない、適用されない。」と。そして結果的に 14 節で『私は、集会、会衆のただ中で(クリスチャンのコミュニティーの中で、教会の集いの中で)、ほとんど最悪の状態であった。』「なんという愚かしいことをしてしまったのか。もう取り返しのつかないことをしてしまった。もうクリスチャンとしては本来得られるはずの祝福は得られない。そして失われたものは想像もつかないほどである。何よりも家族はどれほど傷ついているだろうか。このことが発覚したら、もう私の将来は無い。一生恥まみれで終わるだけだ。この罪があの人たちに知られれば、会社で明るみに出れば、近所で、学校で、職場で、教会で、友達の間でこの罪があからさまになったら、私はもう人生終わりだ。」と、最悪の状態ですね。最悪の状態に誰もなりたくないと思ひます。ですから是非逆から考えて下さい。最悪の状態になりたくないければ、目の前の一時の瞬間的な、刹那的な、そんな快樂に自分の魂を売らないで欲しいと思ひます。自分の生涯、将来をすべて売り渡して台無しにして欲しくないということです。最悪になりたくないければです。このことを大人も知る必要がありますが、子供にも伝えてあげて下さい。子供にだって分かると思ひます。最悪になりたいか。最悪とはどういうことか、しっかりと伝えてあげた上で、是非「私の訓戒をしっかりと受け止めてもらいたい。私の教えるをしっかりと汲み取ってもらいたい。厳肅に真摯に真面目に本気で。私はあなたのことを愛しているから、聞

いてちょうだい。あなたには最悪になってもらいたくないから聞いてちょうだい。お父さんの言うことを聞きなさい、あなたの倍も生きてきたんだから。何倍も生きてきたんだから、おじいちゃんの言うことを聞きなさい。」と。「そのうちに分かるようになる。」という言い方をよくしますけれども、それは無責任な言い方です。確かにそのうち分かるようになると思います。子供はあまりにも頑なであれば、結局は子どもは自分でリスクを背負うようになります。自由意志がありますから強制することは出来ません。結婚するまでセックスさせない、鎖で繋いでおこなうということは出来ないわけです。でも「そのうち分かるようになる。」と言って、あまり口酸っぱく口うるさく言わないようになってしまうと、子供はすぐに忘れるものです。何度も何度も言われていないと分からない。そのうちに分かるようになるかもしれないんです。だから諦めたかのように「そのうち分かるようになる。俺の歳になればお前も分かるようになる。」それは間違いないと思いますけれども、でもそういう言葉を出す前に諦めないで欲しいと思います。今のその若い時にこのことを理解して欲しい。このことをしっかり受け止めてもらいたい。そして神様が用意しておられる素晴らしい希望に満ちた充実した祝福に満ちたそういう将来をちゃんと受け取ってもらいたい。そして私たちは自分の責任を十分に果たすことが出来ると思います。「あの時もっと言っておけば良かった。あの子が何を言おうと、どんなに騒ごうと、どんなに逆らおうと、もっと言っておけば良かった。捕まえてもちゃんと言っておけば良かった。しっかり抱きしめて愛をもって伝えておけば良かった。」と。正しいことを今日するという。正しいことを今行っていくということ。最善なことを、ベストのことを今日行っていくということ。その理由は何か、皆さん知っていますか。今、今日正しいことをする。今、今日最善なことをする。今、伝えなければいけないことがあります。それは何のためか。なぜ今伝えなければいけないのか。なぜ今日そのことを伝えなければいけないのか。それは最大の理由は、1 つしかない理由です。明日のためです。明日のために今日伝えなければいけないんです。明日のためにあなたは子供たちに伝えなければいけないんです。「そのことは今日しない。今日は言うことを聞かない。」と言うかもしれません。「皆もやっていること。周りもやっていること。」と言うかもしれません。「もうそれが今は当たり前。それが主流だ。セックスしてない方がおかしい。馬鹿にされる。いじめられる。」それでもあなたは明日のために伝えなければいけません。そのことは今日のうちに伝えておく必要があります。そして今日聞いたら、そのことを今日しない。今日そのことを聞いたら、今日そこには行かない。明日のためです。皆していても、皆そこに行っている、あなたは今日そのことを聞いたら、今日聞き従いなさい。明日はあなたが思うよりも早くやって来るからと伝えてあげて下さい。まだまだ明日は来ないと思うかもしれませんが。でも私たちはもう十分長く生きていますから分かっていると思います。明日はあつという間に来るんです。「まだ明日がある。いつかそのうちに。」明日はあなたが思うほど、私たちが思うほど遅れては来ないんです。あつという間に来ます。あつという間にあなたの子供はもうティーンエイジャー。もう高校生。もう大学生。そしてもう家を出る。伝えましたか。1 人になって何をしているか知っていますか。「まだうちの子は。」まるで幼稚園児のように思っているかもしれません。「そんな性の目覚めなんか、まだまだ。」と思っているかもしれません。「うちの子は関係ない。よその子はそれで問題かもしれないけれども。うちの子に限ってそんなことはありません。」是非今日です。今が大事です。

そして 15 節から『<sup>15</sup>あなたの水ためから、水を飲め。豊かな水をあなたの井戸から。<sup>16</sup>あなたの泉を外に散らし、通りを水路にしてよいものか。<sup>17</sup>それを自分だけのものにせよ。あなたのところにいる外国人のものにするな。』この“水ため”というのは、ソロモンの時代は勿論これは古代イスラエルの時代であって、やはり乾燥地帯の話であります。今もイスラエルは乾燥地帯、中東全般はそうです。砂漠地帯でもあります。その環境において水ためというのは、非常に貴重なものだということは容易に想像つくと思います。家族の水ためということは、それは家族にとってのもう死活問題に関わる最重要の所有物ということです。雨が降らないわけですから、水ために貯めた水が家族の命をつないでいくわけです。この水ためが他人に奪われたらどうでしょうか。ですからこの水ためを盗むという行為は、これは死刑に相当する重犯罪であります。家族の健康、ひいては命に関わるからです。死活問題です。そしてこれが勿論象徴で使われていることは容易に皆さんも文脈で分かると思います。この水ためというのは、結婚の枠内における夫婦の性生活のことを言っています。この水ためが他者に奪われたらどうなるのか。健康が奪われます。生活が乱



れます。家族が路頭に迷うかもしれない。様々な有害なものが、この水ためが他人に奪われることによって生じてくるということを想像出来ると思います。“泉”という言葉も性欲の象徴です。井戸とか水ため、泉です。これは男にとっての妻という存在です。夫はその性欲を自分の伴侶によって、妻によって満たすべきである。またユダヤ教のラビによると、水というのは子供たちを象徴するんだというふうに説いております。ですからここで『**16 あなたの泉を外に散らし、通りを水路にしてよいものか。**』これは結婚の枠外で性的関係を結び、そしてその不倫相手なりが、若しくは未婚の女性が妊娠した場合、そこでまた子供が生まれるわけです。その子供たちが路頭に迷うというその姿も描いているというわけでありませぬ。

これはアメリカの統計ですけれども、父親の居ない、父親不在の家庭の子ども、それは今現在アメリカでは 40% です。40%の子供たちの家庭には、お父さんが居ないんです。アメリカの映画とかドラマでもこのことは如実に現れています。お父さんが居ない家庭、それが普通であるかのように描かれているわけでありませぬ。最近では NHK の朝ドラの『あまちゃん』でも、そこでも最近ニュースで話題になっているのは父親不在という描き方です。宮崎駿のアニメーションも多くの場合父親不在という、そういう設定が多く見られるという特徴があります。お父さんが居ないのがもう当たり前。そして、アメリカのその父親不在の家庭の子どもたちに関する統計ですけれども、お父さんの居ない家庭で育った若者の自殺率は 63%。アメリカの保健福祉機関の発表です。お父さんが居ない家庭で妊娠してしまったティーンエイジャーは 71%。家出とホームレスの子どもは 90%。州の州立施設に居る未成年者は 70%。高校中退したのは 71%。刑務所に入ったのは 85%。皆お父さんが居ない家庭の若者たちの数字です。父親不在の家庭で育った少女は、思春期を早く迎えるなど年齢変化が早く起きるという傾向もあります。ですから父親が居ない家庭で育った娘は、早い歳で低年齢でセックスを覚える。そして性病にかかる、妊娠するというケースが多いわけだ。また父親が居ないということで同性愛になってしまう。父親の愛情を受けられなかったという男の子は同性愛に奔ったり、または父親の愛情を受けられなかったという女の子は自分のお父さんと同じようなおじさんたちと性関係を結ぶようになります。10 代の女の子が自分の父親と同じような年齢のおじさんたちとセックスを繰り返す、夜な夜な。「セックス依存症だ、セックス中毒だ。なんと淫乱な娘たちだ。」と皆さん思うかもしれませんが、その多くは家にお父さんが居なかったんです。お父さんに抱っこされたことがないんです。肌のぬくもりを知らないんです。淋しいんです。だから彼女たちは男たちにそれを求めるんです。セックスが好きだからじゃないんです、本当は。悲痛の叫びだということです。ですから子供たちを平気で指さして罵ってはいけません。勿論彼らも弱いですから、いつも戒めて励まして守っていく必要がありますけれども、でも彼らは完全なる犠牲者です。大人たちの犠牲者です。父親が居ないから。父親が居ないというのは物理的に居ないだけではありません。お父さんは居るけれども、家にはほとんど居ない。離婚して居ないんじゃない、仕事で忙しいから居ない。お父さんとは口を利いたことがない、同じ屋根の下に暮らしているのに。全くお父さんとはコミュニケーションもスキンシップも全くありません。お父さんは家に居ますけれども。それも実は同じです。離婚して父親が居ないケースもあれば、勿論死別というケースもありますけれども、でも父親が居ながらも事実上は父親不在という家庭。機能不全家族という状態。これは起こり得ることです。物理的に親父が居るのにです。全部奥さん任せ。子供のことは全部奥さん任せ。自分はただ外で働いて仕事にかまけて「家族のために働いているんだ。」なんて言いながら、父親としての責任を完全放棄してしまっているその姿です。だからあなたの息子や娘たちは、そのような性的なものに興味を持ち、そこに愛情を求めるわけだ。彼氏彼女にはまっぴいって行くわけだ。愛情を受けられていないからです。禁欲だけを説くのでは、子供の欲求は抑えられません。子供たちは欲求しているのは、性欲を満たす以上に言わば愛欲と言っても良いかもしれませんが、親からの愛に飢えているんです。お父さんから、お母さんから十分な愛を受けていれば、子供たちはそのような火遊びに走ることは大分なくなると思います。興味は持つでしょうけれども。でも家が一番安心するというのがあれば、家で十分愛情が受けられるというのであれば、わざわざ彼氏のところに親に嘘をついてまで泊まりに行く必要もありません。婚前旅行なんかする必要はないんです。お互いの家を行き来しながらも、家族ぐるみで家族の愛を楽しみながら、将来それが結婚に結びつくようであれば、結婚前提の付き合いであれば、そうやって別にセックスなしでもプラトニ

ックな関係で、清い関係で純潔を守る形で男女の健全な付き合いも出来るんです。でも親からの愛を受けていなければ、ついついそれを異性やまたは同性に求めてしまう。性的なものによって代用しようとしてしまう。というのは、夫婦で最高の愛情表現というのは常にセックスだからです。でもこれは夫婦の間での話ならば健全なんです。婚外交渉、婚前交渉でのセックスは、それは歪んだ愛であります。汚れた愛であります。これは新しい命を、健全な美しい清い命を生み出すようなものではありません。

他にもちょっと紹介したいものがあります。これもアメリカの話ですけれども、『10代でセックスをしてはいけない理由』というのが、これもアメリカの女性の医師メグ・マーカーという人の作ったビデオから紹介したいと思います。沢山の10代の性感染症患者たちが彼女のもとを訪れてくるそうです。そういう姿を見て彼女はいたたまれなくなって、啓蒙ビデオを作ったということです。その中の内容を少しまとめましたので紹介したいと思います。『17歳で性器ヘルペスにかかった男の子は、結婚して妻が子供を産んだが、彼の妻も子供も性器ヘルペスにかかっていた。生まれた子供は性器ヘルペスの影響をもらって、脳に巣が入ってスカスカになっており、自分でまともに呼吸もできない。性病はエイズだけではない。性器ヘルペス、尖圭コンジローマ、淋病、梅毒など薬で治ると思われている病気が実は深刻なダメージを自分だけではなく結構相手や赤ちゃんに与える恐ろしい病なのだとは知られていない。性器ヘルペスの場合1回のセックスで移る率は25%だが、10代では子宮膜が出来上がっていないため移る率は一気に46%となる。クラミジアは男女間で移し合いを重ねるうちに治りにくくなり、その症状もどんどん深刻なものとなる。淋病は抗生物質が効かないタイプが増えてきているし、尖圭コンジローマとHIVは1度移れば一生ものである。しかもどちらも影響を抑える薬を投与して症状を軽くするしか手は無い。また女子が尖圭コンジローマにかかると子宮頸がんになりやすく、それで命を落とした者が沢山いる。頭が尖った形のイボが性器に出来る病気だがこれは手術で取り除く以外治療法がない。14歳で尖圭コンジローマにかかり子宮がんにかかった17歳の女子高校生がビデオで証言していた。彼女は軽い気持ちでがんを削り取る手術を受けたが、がんのために結局は子宮を取り去ることになったのだという。手術が終わった後で、彼女は若くして愛する男性との子供をつくることができない身体になったのだと分かりショックだったという。』他にもかなり露骨なことが書いてあります。『すべてのオーラルセックスは性病の予防にはならない。』いわゆる挿入をしないから、口を使ったオーラルセックスなら良いだろうと。妊娠しないから。でもそうではないということも、やはり性病、性感染症はどういう形でも移るということです。とにかく10代という年齢、それは性病が最も移りやすい危険な世代であるということを彼女は強調しています。

『予防として、性的な刺激を受けないよう、刺激から遠ざかること。勿論前提はもうセックスをしないということですが、誘惑に引っかからないように自制する訓練は、将来の結婚生活で浮気による家庭崩壊の危機を防ぎ、幸せな結婚生活を営む訓練となるし、10代の自殺願望から自分を守ることが出来るのだという。精神科の医師の調査結果では、セックスをしている10代女性の自殺者の数は、セックスをしていない10代女性の3倍。セックスをしている10代男性の自殺者の数は、セックスをしていない10代男性の8倍あったという。セックスを行う男女の関係の破局は精神の落ち込みがひどく、空しさを感じやすくなり、自分が無価値であると感じ落ち込む。空しいのでセックスをする。するとさらに落ち込む。数人とセックスをするようになると、自分を大切にするという気持ちが失われ虚無的になる。どんどん心が荒み生きる気力が失われるのだという。ケーキが目の前にあれば、見ないようにして勉強するのは苦しいことだが、その部屋のドアを閉めて別の部屋に行けば良いのである。10代のセックスを避けることはそんなに難しいことではない。誘惑がいっぱいの世の中にあっても自分の幸せを考えれば、セックスの時期を遅らせることが出来る。目の前の誘惑に負けて性欲を満たすためだけに相手の身体を利用することをやめて一時的な楽しみと病気を選ばず、幸せを選んでドアから出て行けば良いのだ。二人のまだ誰もセックスをしていない男女が結婚すれば、性病になるはずもない。1人が他の1人とセックスをするということは、相手が過去にセックスをした者すべてからウイルスを受け取る可能性があるということであり、過去の相手がセックスをしてきたすべての人間もまた他人のウイルスを受け取った可能性があるのである。』と。現在アメリカでは1回のセックスで性病が移る確率は25%だそうです。恐ろしいリスクです。こういうデータが私たちの目の前に今突きつけられております。私

たちはただショックを受けるだけで済ましてはいけません。

最後に残したところを読んで終わりたいと思います。18節から『<sup>18</sup>あなたの泉を祝福されたものとし、あなたの若い時の妻と喜び樂しめ。<sup>19</sup>愛らしい雌鹿、いとしいかもしかよ。その乳房がいつもあなたを酔わせ、いつも彼女の愛に夢中になれ。<sup>20</sup>わが子よ。あなたはどうして他国の女に夢中になり、見知らぬ女の胸を抱くのか。<sup>21</sup>人の道は主の目の前にあり、主はその道筋のすべてに心を配っておられる。<sup>22</sup>悪者は自分の咎に捕えられ、自分の罪のなわにつながれる。<sup>23</sup>彼は懲らしめがないために死に、その愚かさが大きいためにあやまちを犯す。』聖書は決して性において禁欲主義を説いているわけではありません。むしろ逆だと言って良いと思います。特に18節以降を見て頂くと分かる通り、18～19節にはハッキリ書いてあります。夫婦はセックスを喜び樂しめ、と書いてあります。この「喜び樂しめ」という言葉は、さらに原語のニュアンスを汲み取れば、「喜びが最高潮に達するほど」。「酔わせ」という言葉は、「十二分に満足するように」。このような性交、セックスというのは、決して汚れた行為ではありません。いかがわしい、いやらしい、卑猥なものではありません。日本人はよくこれを“エッチ”と言います。“エッチ”というのは変態(HENTAI)のHから来ています。気軽に大人も子供も「Hする」と言います。「変態する」という意味です。クリスチャンは絶対に使わないで下さい。これは変態じゃないんです。これは神がデザインされた、神がつくられた最高の喜びをもたらす、夫婦のみが満喫を許される、特別な神秘的なものなんです。神の意図としては、結婚の枠内で、夫婦の間で性交というものが、性関係、セックスというものが満喫される、エンジョイされる。それはただの勿論子供を生むための生殖活動ではありません。実際動物もすることです。でもそれ以上にこの性的結合というのは、まさに人に一心同体をもたらすもの、全く違う、人格も違う、性別も違う、年齢も違う、育った環境も違う個別の人たちが、独立した者たちが、夫婦となることによって一心同体という、これまでにないような神秘的な親密な交わりを持つ。このような深いコミュニケーションは夫婦以外には持てないということです。そして、その深いコミュニケーションの最大の現れがセックスというものです。これは夫婦だけに許されているものです。ですから夫婦は別に同じベッドで寝ても何の罪悪感も感じません。でもあなたが自分の伴侶以外の人と一緒にベッドに寝ていたらどうでしょうか。恥ずかしいと思うか、やばいと思うか、罪悪感を感じるわけです。でも夫婦だったら堂々としているわけです。堂々と人前でセックスをしると言っているわけではないですけども、ただ別にそれを違和感なく、いやらしくなく、それが当たり前、それが自然、それがむしろ満たしとなっていくわけです。ですからこれはただの生殖活動とは全く異なる、これは人間ならではの与えられた神の美しい賜物というものであります。そして勿論このような性の喜びは夫婦で味わうもので、夫婦以外の者だけでなく、またたった1人で味わうものでもありません。ですから先ほど本の中では、射精の時には別にマスターベーションしても良い。それは1人で楽しむという話です。性の喜びは1人で楽しむではいけないです。それは夫婦で楽しまなければいけないもの。これも聖書で書かれていることです。ですから、後ろめたさを感じないでコソコソしなくても良い、夫婦であれば堂々と開放的に積極的にこれを喜び満喫して良いんだと。それは特別なものです。

ただし、残念なことこの性的な喜びを満喫できていない夫婦も沢山いることも事実です。所謂今日のセックスレス夫婦問題というものです。病気や特別な事情があれば別ですけども、1ヶ月以上夫婦の営みがない、夫婦としてセックスをしていない、それをセックスレスと言います。これは深刻な状態と言っておきたいと思います。厚生労働省では、仕事で疲れているからという男性は24.6%、女性は15.1%。出産後何となくセックスが出来ていない、男性は13.6%、女性は21.0%。面倒臭いという男性は9.3%、女性はその倍の18.8%です。この1年間夫婦でセックスの回数が全くないというカップル。20代では11%、30代では26%、40代では36%、50代では46%およそ半分です。1年間全く夫婦でセックスをしていないという割合です。1ヶ月間セックスがないだけでセックスレスという状態です。病気だとかは別ですけども。ただ興味深いことに実際問題として、男性の生理学的性欲自体は80代になるまで衰えないわけです。先日も事件がありました。老人ホームで別れ話が出て、70代80代のおじいちゃんおばあちゃんが付き合っていたのが、もう別れ話になって刃物で切りつけたと。老人ホームでもセックスがあるんです。彼らがセックスしているかどうかは別ですけども、ただ看護師さんを襲うとか、そういう老人もいっぱいいるわ

けです。そういう男性の 80 代になっても性欲は衰えない。性欲は少なくとも平均的に 80 代まで実は衰えないんです。女性はどうかというと、年齢が上がるほど性に積極的になるという傾向があるそうです。ですから非常に皮肉なことですけれども、世代が上がるほどセックスレスの問題が、根が深いものとなっていくということです。セックスレス、これはコミュニケーションレスと言えらると思います。セックスレスからコミュニケーションレスとなって、それが結局は浮気につながる、離婚につながるわけです。日本の最大の理由は性格の不一致と言われてはいますが、その背後にあるのは性の不一致です。セックスをしなくなると必ずと言って良いほど会話がなくなるわけです。離婚の原因のナンバーワンです。

第一コリント 7 章 3～5 節(『<sup>3</sup> 夫は自分の妻に対して義務を果たし、同様に妻も自分の夫に対して義務を果たささい。<sup>4</sup> 妻は自分のからだに関する権利を持ってはおらず、それは夫のものです。同様に夫も自分のからだについての権利を持ってはおらず、それは妻のものです。<sup>5</sup> 互いの権利を奪い取ってはいけません。ただし、祈りに専心するために、合意の上でしばらく離れていて、また再びいっしょになるというのならかまいません。あなたがたが自制力を欠くとき、サタンの誘惑にかからないためです。』) 夫婦はもはやお互いの体は、もうお互いのものである。ですから面倒臭いとか、疲れているということでセックスをしない。相手が求めてきてもそれをしないというのは(病気だったら別ですけれども、妊娠中だったらそれも考えなければいけないわけです。また生理中とか、そういうところは勿論常識で判断する必要がありますけれども、そうでないのに)、特別な理由がないのに、ただもう疲れているとか、なんかもう面倒臭い、なんとなく嫌だ、全然気持ちよくないから、むしろ不快だからとか。それはもう深刻な状態だということです。聖書は、もうあなたの体はあなたのものではないんだと。あなたはその体を夫に与えたんです。そして、夫の体もまた妻のものなんです。求める者には拒んではいけないということ、これは夫婦の間で取り決めなくてはならないことが**第一コリント 7 章 3～5 節**に書いてあります。あくまで夫婦で楽しむもの。「伴侶が相手をしてくれないから私は風俗に行くんだ。出会い系サイトに奔るんだ。夜な夜なインターネットポルノサイトを見ながらマスターベーションして 1 人で楽しむ、喜ぶんだ。」これは絶対にあってはいけないことです。聖書から外れています。「自分が相手をしたくないから、夫は適当にマスターベーションでもしておけば良いと、そうやって性の処理だけしておけば良い。」妻として間違っています。別に必ずしも性交をしなくても、ただ二人が肌を寄せ合って、そして一緒に親密に交わりをして話をするだけでも。別に確かに体力がないときもあるでしょう。病気の時もあるでしょう。でも必ずしも性の快感だけを得るためにセックスをするだけじゃなくて、夫婦のコミュニケーションとして一緒に時間を過ごす。一緒に部屋に居る、一緒に寝室に居る、一緒にベッドに居る。これはコミュニケーションの上では非常に重要だということです。これがコミュニケーションも助ける術すべとなるということです。セックスというものを有害なもの、卑猥なものと思わないで下さい。夫婦においては逆なんです。有益なものです。夫婦においてはこのセックスというのは、美しいものです。親密なもので、最高のコミュニケーション。もっとも親密なコミュニケーション。これがセックスというふうに神様がデザインされたんです。ですから聖書で、「**アダムはエバを知った。**」とあります。“**知った**”というのは、ただ名前を知ったとか、知識として知ったという意味ではなくて、セックスをしたという意味です。セックスによって最も深いレベルでの彼女を知った。それが聖書の言葉遣いです。つまりセックスとは、知ること、なんです。ただ快感を得るため、性欲を満たすはけ口となる、処理する、それだけじゃないんです。知るために、セックスはデザインされているんです。知るつもりで、相手をもっと知りたい、もっと愛していきたい、もっと深いレベルでコミュニケーションしていきたい、そのためのセックスなんです。これをクリスチャンが理解する時、クリスチャンの夫婦のセックスもより一層もっと良いものになると思います。「この人とセックスをしても全然良くないし、全然面白くないし、却って気分が悪くなる。」とか。いま私はあからさまにこういうことを皆さんに伝えてはいますが、それを聞くに十分な年齢だから言っているんです。あまり小さな子供には勿論ここまででは言えないですけれども、でもこの中にもひょっとしたらそういうコミュニケーションがもう乏しくなっている。「まさにあなたの言う通り私たちはセックスレス夫婦です。そして、コミュニケーションレスでもあります。」でもこれは、お互いに知るという目的があるという、このことを忘れてはいけません。肉体のこういう性的な行為を通して、より深く、より強く、より親しく相手を知るようになる。これがセックスの目的であ

る。

J.O.パーキンズという人の言葉がよくまとまっているので紹介したいと思います。『理解し、理解され、相手の思いを本当に知り、何でも安心して話せ、話したことは受け入れられ、受け入れられなくても咎められることなく、ありのままの自分でいられる。そして愛されていることが分かっている。これこそがまさに天国の前味だ。』この天国の前味だ、と言っているのは、夫婦のセックスの話をしているんです。夫婦のセックスを通して理解し、理解され、相手の思いを本当に知り、何でも安心して話せ、話したことは受け入れられ、受け入れられなくても咎められることなく、ありのままの自分でいられる。そして愛されていることが分かっている。これこそがまさに天国の前味だ。ティーンエイジャーにこれが天国の前味だということを教えなくてははいけません。天国の前味、それが夫婦のセックスに神様が与えておられるということ。童貞と処女が結ばれる時、この天国の前味がそこにおいて味わわれます。勿論もう私たちは結婚前に関係を持っていましたとか、その時クリスチャンではありませんでした。そういう人たちが皆手遅れだと言っているのではありません。今からでも遅くはありません。しっかりと聖書的な夫婦となって頂いて、そして今まで夫婦としてもセックスレスだったならば、是非聖書的なセックスをもう一度二人で考えてみて下さい。そしてそれが、またもう一度夫婦の親密な関係を取り戻す絶好のチャンスになり、そしてそれがまたひいてはあなたの息子や娘たちに孫たちにこの素晴らしさを伝える1つの動機になるかもしれません。ただ教理を教えるだけじゃなくて、「自分が体験しているから。こんなに素晴らしいものだったと知らなかった。でも今知ったから、天国の前味を知ったから、子供たちにもこれを是非味わってもらいたい。これを味わえなくするような誘惑、過ちには決して陥ってはならない。」と、この前味を知っているからこそ言えるということもあるわけです。

そして 21 節に『<sup>21</sup>人の道は主の目の前にあり、主はその道筋のすべてに心を配っておられる。』主は見ておられます。“二人だけ”なんて思っははいけません。そこには主が見ておられる。ヘブル書 11 章によると、証人たちが雲のように取り巻いている。天国に行っておじいちゃんおばちゃんも見ています。「二人だけ、誰も見ていない。」と子供たちは思います。密室だと思うかもしれません。「この海岸には、俺とお前だけ。」なんて言っているかもしれませんが、そうじゃないんです。このホテルには不倫を楽しむ 2 人の男女がいる、のではないのです。そこには神もおられ、神が見ているということをお子孫たちに伝えて下さい。「心を配る」という言葉は、6 節にも使われていました。『その女はいのちの道に心を配らず、』\*印を見ていただくと、原語は「平らにする」。これは「スムーズにする」という言葉です。同じ言葉がやはり箴言 4 章 26 節にも使われていました。『あなたの足の道筋に心を配り、あなたのすべての道を堅く定めよ。』キーワードです。もう 3 回使われています。「心を配る」というのは意識で、直訳は「平らにする」「スムーズにする」。でも、性的不道德の罪は、平らにすることはありません、スムーズにはなりません。常にでこぼこです。主は見ておられます。そしてあなたがつまずかないように、でこぼこをなくすように、スムーズに平らにされたい。それが主のハートであります。あなたを監視して、まるで監視カメラで咎めようとしているのではありません。平らにしたいんです。つまずいて欲しくない。倒れて欲しくない。陥って欲しくない。死んでもらいたくないんです。天国の前味を味わってもらいたい。そのために主は見ていて下さいます。

22 節で『<sup>22</sup>悪者は自分の咎に捕えられ、自分の罪のなわにつながる。』罪の縄、これに縛られる。罪の奴隷化される。不倫やポルノ中毒、出会い系サイト、いろんなものによって捕らわれてしまうと、所謂セックス依存症、もうそのスリルが止められないから何度も何度も出会い系サイトにアクセスしてしまう。何度も不倫を繰り返してしまう。何度もポルノサイトにはまってしまう。長時間膨大なお金をかけながら。風俗通いを止められない。捕らわれて縄につながれてしまいます。「罪を犯す者は、罪の奴隷となる。」とイエスは言われました。止めれば解放されます。でも止められなくなったら、なかなか解放されません。この「捕えられ、つながれる。」というのは、実際に自分の咎に捕えられると。「自分の罪のなわにつながる」とありますから、勘違いしないで下さい。神があなたをパクるのではないんです。神があなたを逮捕するのではないんです。神があなたを検挙するのではないんです。あなたの罪があなたを捕らえるんです。エレミヤ 2:19 『あなたの悪が、あなたを懲らし、あなたの背信が、あなたを責める。だから、知り、見きわめよ。あなたが、あなたの神、主を捨てて、わたしを恐れぬのは、どんなに悪く、苦々しいことかを。——万軍

の神、主の御告げ。——』も是非参考にして頂きたいと思います。何度も言いますが罪は、どんな罪でも赦されます。イエス・キリストを信じる者は決して罪に定められるようなことはありません。でも、罪の結果は避けられません。罪赦され、罪は忘れ去られます。神の記憶からも消されます。どんな罪でも赦され、どんな罪でも神は忘れて下さるんです。でも、蒔いた種は刈り取らなくてははいけません。しっぺ返しはあります。罪の種を蒔けば、必ず罪の結果が刈り取りとしてあなたの目の前に現れるんです。日本語でも自縄自縛という言葉があります。まさに自分で自分の首を絞めるという言葉であります。必ず自縄自縛、罪を犯せばろくなことはない。一時の快楽、そんなものに、そんな火遊びに人生そのものを台無しにはならないということを、子供たちに伝えて下さい。全部自分に返って来るんです。

23節で『懲らしめがないために死ぬ』とありますが、懲らしめられているうちは幸いです。箴言3章11～12節でも見ました。『<sup>11</sup>わが子よ。主の懲らしめをないがしろにするな。その叱責をいとうな。<sup>12</sup>父がかわいがる子をしかるように、主は愛する者をしかる。』「うるさいなあ、ウザイなあ、面倒くさいなあ、もう聞きたくない。そんな話は時代遅れだ。もう聖書の話なんか嫌だ。」懲らしめて下さい。どんどん叱ってあげて下さい。愛しているから叱るんです。愛しなければ「どうぞ好きなようにやって下さい。勝手にやって下さい、お父さんお母さんは知らないから。あなたがどうなろうと関係ありませんから。」そんなことをあなたには絶対言えないと思います。でも事実上あなたはそういうことをしているのかもしれない。言わないから、叱らないから、しつこく言わないから、逃がしているから、捕まえないから、嫌われたくないから子供の顔色を見て子供にへつらっているから、子供に気に入ってもらいたいから、大好きなお父さんお母さんと子供から孫から言われたいから。それは愛していないという証拠です。愛しているならば懲らしめなくてははいけません。叱らなくてははいけません。尻を叩かなくてははいけないわけです。

長時間にわたって5章から皆さんにお伝えしましたが、本来は6章まで行くつもりだったんです。でもまたこれは次回にしたいと思います。6章も同じテーマを扱っていますが、その前に6章には金銭問題が差し込まれています。性教育、セックスのトラブルも、これも重大です。家庭の中でも、教会の中でも、社会でも、大きな問題、社会問題となっていますが、金銭問題もこれも深刻な問題となっています。勿論これも言うまでもなく家庭の中でも、教会の中でも、職場でも、消費者ローンや銀行相手また個人でお金の貸し借り、ローン、いろんな問題があります。この金銭問題についても箴言は明確に端的にズバリ語っておりますので、非常に分かりやすく迷うことないように真理を私たちに突きつけてくれますので、また次回楽しみにして頂いて6章から金銭問題から始まり、また繰り返して性教育に戻って行きます。これも何度も言われなければいけないものだとことを神様は十二分に分かっての上でありますから、6章その後7章も同じテーマも続いております。またこれでもかと言うほど聞いて頂くことになりますけれども、同じことをあなたの子どもたち、孫たちにもして頂く。それが神様の意図でありますから、ただ皆さんが聞いて学んで、ここで留めて終わってははいけません。教会の子供たちにも伝えなければはいけませんし、またどうやって性教育をしたら良いか分からないという若いお母さんたちお父さんたちにも、あなたは伝えていく必要があります。では、今日はこれで終わりたいと思います。